【論文】

シンガポールの就学前教育における「社会」とのつながりの実態
―「Discovery of the World」という学習領域に焦点を当てて―

追手門学院大学　　李　　霞

1．はじめに

グローバル化の進展や AI を代表する人工知能の急速な進化に伴い、私たちの社会は目まぐるしい変化を続けている。今後も加速的に進んでいく社会の変化に対応し、よりよい社会や世界を創造していく力を持つ人材の育成が最重要課題とされ、近年、日本ではこれに関連する教育改革が大いに進められてきた。とりわけ平成 29 年に改訂された学習指導要領において、人材の育成を担ってきた学校が社会や世界と多様なつながりを持つ教育活動の展開を求める「社会に開かれた教育課程」の実現が提案されたことが注目に値する。

「社会に開かれた教育課程」は、よりよい社会を創るために、教育活動の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活かすことなど学校教育が社会との連携を図ることを目指すものであり、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していける力を持つ子どもを積極的に育もうとする考え方である[1]。平成 29 年の教育改革によって、こうした「社会に開かれた教育課程」が幼児教育段階にも導入されたことから、グローバル化に対応する人材の育成における幼児教育の重要性に対する認識がうかがわれる。

今日、幼児教育の手引きである幼稚園教育要領によると、幼稚園は、学校教育の始まりと位置付けられており、「一人ひとりの幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培う」ことが目標とされている[2]。こうした目標の実現のために幼稚園には、「どのような資質・能力を育むようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協力によりその実現を図っていく」[3]と「社会に開かれた教育課程」の実施が義務付けられている。

以上の記述から、幼児教育の目標は幼児段階に留まらず、子どもが成人人生を歩むことも視野に入れられていることが明白である。また、国際社会で生き抜くために必要な国際視野・多様な価値に対する尊重、柔軟な発想や豊かな感性、よりよい社会や世界の創造に他者と協働的に取り組む態度と能力の育成が教育の最終的な目標と捉えられ、こうした教育の最終的な目標を実現する方法が、「社会との連携及び協力」を重んじる「社会に開かれた教育課程」の実現とされているのである。

しかしながら、幼児教育における「社会に開かれた教育課程」で意識されている「社会」と、教育の最終的な目標で意識されている「社会」とは、同じ概念であろうかと考えると、両者の間にニュアンスの差が感じられる。そこで、幼児教育における「社会に開かれた教育課程」で意識されている「社会」の中身を探るために、幼稚園教育要領を手掛かりに調べたところ、幼児教育課程の編成における注意事項においては「地域の現状や課題を捉える」こと、「家庭や地域社会と協力する」こと、また、教育課程編成の基本的な方針が「家庭や地域とも共有」することなどの表現が多く確認できた[4]。これらの表現か

ら、幼児教育における「社会に開かれた教育課程」で意識されている「社会」とは子どもの身近にある地域社会を意味しており、家や家族、園及び近所が含まれた人的・物的・空間的環境や自然資源のことと捉えることができる。幼児教育において意識されている「社会」の概念が判明したことで、さらなる疑問が浮かび上がる。それは、①成人人生をよりよく送り、国際社会で生き抜くために必要な資質・能力の基礎を、いかに地域社会と連携しながら幼児教育を通じて育むか、②そもそも自らを取り巻く地域社会とつながるために必要とされる子どもの資質・能力とは何か、である。この２点を明らかにすることは幼児教育目標の実現をはじめ、グローバル化に対応しようとする日本の教育改革の目標の実現につながるであろう。

これらの疑問を解明するために、本論文は関連する取り組みをいち早く進めてきたシンガポールに注目することにした。なぜなら、シンガポールは、1965 年の独立以降、民族的アイデンティティとともに、国際競争力を持つ国民の育成を目指して、幼児期から一貫して民族の伝統や地域での生活とともに世界とのつながりを意識した教育を、多彩な取り組みを通じて展開してきたからである。

これまで、シンガポールの幼児教育についての先行研究は、池田充裕、埋橋玲子、坂井武司、筆者らによるものが確認できる。池田は 2000 年代に入って以降のシンガポールの幼児教育改革に対する分析を行い、幼児教育の内容と方法が生涯にわたる学習力や探究力、創造性の獲得を目指すものに改められていると結論づけた[5]。埋橋は今日のシンガポールの幼児教育はホリスティックな発達を目指し、子どもの探求心を刺激する環境構成、アクティブ・ラーニングの誘発、子どもの学びのファシリテーターとしての保育者の役割を求めていると指摘している[6]。坂井はシンガポールと日本の幼児教育カリキュラムの比較を行い、幼小接続期にあたる算数科の学習で育む資質・能力の基礎について考察を行った[7]。これらの先行研究は、今日のシンガポールの幼児教育を知るために大いなる示唆を示しているものの、主に政策的な改革や教育内容の側面に関する言及に留まっている。他方、シンガポールの幼児教育における「社会」との繋がりに焦点を当てた研究は、これまで筆者によるものだけが確認できる。筆者は幼児教育課程政策に対する分析及びフィールド調査から、シンガポールでは、幼児教育課程編成及び実施において「地域資源」の利用が大いに推奨されている実態を明らかにした。また、その背景には、政府によるサポート体制が確立されていること、教育活動の計画と実施において学びの連続性を保障する視点があることも明らかにした[8]。しかしながら、①シンガポールの幼児教育において意識されている「社会」とは具体的にどのような概念であるか、②「社会」とつながるために必要とされる子どもの資質・能力は何か、③これらの資質・能力を育むために、シンガポールではどのような活動・工夫がされているのか、に対する解明がこれまでできていない。

そこで本論文では、これらの点を解明することを目指してシンガポールの幼児教育課程政策に対する分析に加え、現地の幼稚園におけるフィールド調査で得たデータを踏まえて検討を行う。論文の構成については、第２節では、幼児教育課程政策に焦点を当て、幼児教育の目標・育成すべきスキルや教師の指導の注意点などに対する分析を行い、幼児教育課程政策における「社会」とのつながりに対する構想を明らかにする。第３節では、フィールド調査を行った B kindergarten（以下、BK と略す）の全体計画・年間指導計画を取り上げ、当園の教育活動における子どもと「社会」とのつながりに対する捉え方を明らかにする。第４節では、第３節での分析を踏まえ、2022 年度に実際に行われた BK の教育活動に焦点

を当て、「社会」とのつながりに必要とされる子どもの資質・能力の育成実態を考察し、第５節では、まとめと展望を行う。

２．幼児教育課程政策における「社会」とのつながりに対する構想

シンガポールの教育の最終目標は①自信のある人、②自発的な学習者、③積極的な貢献者、④社会に関心を示す市民、の育成とされている[9]。幼児教育はこの目標を実現する最初のステップと位置づけられ、「Nurturing Early Learners（早期学習者の育成）」[10]を目指して、子どもに６つの気質を育成することを重視している。この６つの気質は、忍耐力（Perseverance）、省察力（Reflectiveness）、自他の尊重（Appreciation）、創意工夫（Inventiveness）、好奇心（Sense of Wonder and Curiosity）、集中して取り組む力（Engagement）となっている。この６つの気質を効果的に育成するために、幼児教育の内容は、①美学と創造的表現（Aesthetics and Creative Expression）②世界の発見（Discovery of the World）③言語とリテラシー（Language and Literacy）④運動技能の発達（Motor Skills Development）⑤数量・計算能力（Numeracy）⑥社会的・情緒的発達（Social and Emotional　Development）の６つに分けられている[11]。

特に「世界の発見（Discovery of the World、以下、「DOW」と略す）」は、幼児と周囲の生活世界との関わりを重点的に取り扱っており、幼児たちが知識を広げ、周囲の世界を理解するために不可欠な知識、スキルと理解の習得を目指している[12]。そのため、この領域に対する分析は日本の幼児教育で重視されている社会とのつながりに有意義な示唆を得られると考え、以下では、「DOW」に焦点を当てていく。

シンガポール幼児教育の手引きである『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore（幼い学び手を育てるーシンガポールのキンダーガーデンのためのカリキュラムの枠組み、2012 年）』（以下、『カリキュラム・フレームワーク』とする）における「DOW」の学習には、３つの目標が掲げられている。すなわち、①住んでいる世界に関心を示すこと、②簡単な調査を通じて、物事がなぜ起こるのか、どのように機能するのかを見つけること、③周りの世界に対して前向きな態度を育むこと、である。また、「DOW」における学習対象（Areas for exploration）は、①人々と文化：家族、友人、コミュニティ、多文化主義と多様性（例：民族、宗教、年齢、能力、視点、職業）、②自然および建築環境：植物、動物、天然資源（例：水、空気、岩石、材料の特性、乗り物、天然および人工物）、③場所と空間：子どもたちの身近な環境（例：自宅、幼稚園、近所、建物、興味のある場所、国内の他の地域、世界の他の地域、簡単な地図）、④時間と出来事：時間の経過に伴う変化の概念（例：過去、現在、未来、昼/夜、天候、ライフサイクル、成長、原因と結果、歴史と現在における重要な出来事などの環境で起こる変化）、⑤発明とテクノロジー：物事がどのように機能するか、日常の物体を扱うこと、情報通信技術、発明者と発明のプロセス、子どもたちが自分の発明を設計し作成することについて学ぶこと、などとなっている[13]。さらに、学習活動を通じて、子どもたちに、観察・比較・分類・順序付け・質問・意思決定・問題解決・予測・テスト・反省・推論・記録及びコミュニケーションなどの能力やスキルを育むことも言及されている[14]。

「DOW」の学習に関連する必要な知識、スキルの習得、及び望ましい意欲態度の育成のために、教師の役割に対する提案も記されており、例えば、子どもの探究活動を援助する際に、「①子どもが自らの感覚や意識に従い、さまざまなツール、機器、リソースを使用して、環境について調べる」こと、「②さま

ざまなソースから情報を収集する」こと、「③調査結果をさまざまな方法で記録し、表現する」こと、「④個人の経験と自らが学んだことについて話すことのできるように、有意義で関連性の高い内容を提供する」こと、がその具体的な内容である[15]。教師の役割に対する提案から、教師の役割は活動展開に必要なツール、機器、リソースを用意すること、調査方法、記録・表現方法に対する援助といった外からのアプローチに留まっており、学習活動における子どもたちの主体的な意思決定や取り組みといった内からのアプローチを尊重すべきものと捉えられていることがわかる。

「DOW」の学習を通じて育成すべき子どもの資質・能力とは何かを究明するために、『カリキュラム・フレームワーク』に示されている関連内容をみていく。表１は、『カリキュラム・フレームワーク』に示されている「DOW」の学習目標①「住んでいる世界に関心を示す」及び学習目標②「簡単な調査を通じて、物事がなぜ起こるのか、どのように機能するのかを見つける」の実現のために、表２は学習目標③「周りの世界に対して前向きな態度を育む」の実現のために、子どもが身につけるべき知識、スキル、気質、及び教師は子どもの学習活動について注目すべきポイントを示すものである。

表 1. 学習目標①②を達成するための注意事項

主要な知識/スキル/資質	例えば：次のようなときに子どもたちの学習と発達を観察できる。
・五感と簡単な道具（虫眼鏡、園芸道具、カメラ）を使って、住んでいる世界を探検する。 ・住んでいる世界を観察し、認識する。 － 環境の類似点と相違点（生き物と無生物） － 環境で起こるパターンと変化（例：昼と夜、成長とライフサイクル、過去と現在の出来事） ・物事がなぜ起こったのか、物事がどのように機能するのかを知るために簡単な調査を行う。 ・さまざまな情報源から情報を収集し（例：簡単な実験を行う、教室の訪問者や他の専門家と話す、野外旅行に行く、さまざまな材料を扱う）、物事がなぜ起こるのか、物事がどのように機能するのかを調べる。 ・観察や発見を簡単に記録（絵を描く、立体模型を作るなど）する。 ・観察や発見について話す。	・驚きを表現し、観察や経験について話す。 ・教室で提供されるさまざまな教材を使って作業したり操作したりすることに興味を示す。 ・興味やアイデアを教師や仲間と共有する。 ・物事がなぜ起こるのか、物事がどのように機能するのか、そして身近な人の生活について質問する。 ・興味のあるものを観察したり、探検したり、調べたりすることに楽しさを示す。 ・五感を使って物体、素材、環境（例：カタツムリの動きを観察する、さまざまな種類の岩や葉の質感を触って感じる、花やハーブ、スパイスの匂いを嗅ぐ、動物の出す音を聞く）について探検する。 ・調査に必要なさまざまな道具や器具を安全かつ適切に選択し、使用する。 ・物、場所、出来事の特徴を特定する。 ・物、場所、出来事をその特徴を比較し、分類する。 ・自分自身の人生、そして家族や他の知人の人生における過去と現在の出来事を区別する。 ・自然界で起こるサイクルを認識し、それについて話す。

筆者翻訳『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』2012、75-76 頁。

表２. 学習目標③を達成するための注意事項

主要な知識/スキル/資質	例えば：次のようなときに子どもたちの学習と発達を観察できる。
・生き物と環境のために責任、配慮、敬意をはらうことの重要性を認識する。 ・人間の行動が他人、そして住んでいる世界に与える影響を意識する。	・環境をきれいに保つために自身の役割と責任を認識する。 ・教室や幼稚園に飾ってある植物やペットに配慮と敬意を示す。 ・作業終了後の片付けをする。 ・リサイクル材料の利用の重要性を認識する。 ・友達に、手を洗った後は蛇口を閉め、ポイ捨てをしないように注意する。

筆者翻訳『Nurturing Early Learner－A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』2012、77 頁。

表１及び表２からわかるように、「DOW」における学習は、子どもの日常生活に密接に関連し、子どもが様々な道具や材料を使って身近な環境のあらゆる側面を探究し、様々な情報源から情報を収集・記録すること、自らの経験や学んだことについて対話するなど、単に環境に関する知識・スキルの習得だけではなく、知識を広げ、周囲の世界を理解するために不可欠なスキルと理解を習得した上で、責任・配慮・敬意を持ってどのように周囲の世界と関わるべきかなど、自分なりに発信できるよう主体的で探究的な活動が重視されていることが明らかである。なお、「DOW」の学習において、子どもの好奇心を

維持しながら、周囲の世界に対する様々な探究活動を通じて身につけた知識やスキルそして気質は、小学校以降の学校教育の基礎を築くことにつながると認識されている[16]。

以上、『カリキュラム・フレームワーク』に示されている「DOW」に対する説明から、シンガポールの幼児教育課程政策における「社会」とは、単なる日本の幼児教育で意識されている子どもの自宅、家族、園、近所など身近な人的・物的・空間的な環境や自然資源を意味するものだけではなく、時間と出来事や、文化、発明とテクノロジーまで含まれるより広い現実世界であり、国際社会そのものであることが明らかである。また、「社会」とつながるために必要とされる子どもの資質・能力は、社会に対する興味・関心に加え、五感や簡単な道具を使って身近な世界に対する探検を行う意欲や態度、情報を収集し、調査結果を記録・表現する力、対話や発信能力、さらに自らを取り巻くもの、生き物や環境、出来事など周囲の生活世界に対する責任、配慮、敬意となっていることが明らかとなった。

３．BK のカリキュラムにおける「社会」とのつながりに対する構想

他方、子どもと「社会」とのつながりに対する考えは実際の教育現場ではどう捉えられているのかを究明するために、本節では、シンガポール BK の事例を取り上げ見ていきたい。

BK は、MOE（シンガポール教育省）に登録されているキリスト教の幼稚園であり、二部制をとっている園である。2023 年９月時点で、N1（３歳児）、N2（４歳児）、K2（６歳児）の各３クラス、K1（５歳児）の２クラスで合計 11 クラスの約 160 名の子どもが在籍している。BK は、キリスト教の環境のもとで子どもたちの学習を楽しく、刺激的で有意義なものにすることを目指しながら、カリキュラムについては、政府に定められている６つの領域に沿って、体験学習を中心としている。

「DOW」の学習に注目すると、2022 年度の BK の全体計画に示された「DOW」の教育活動に関する構想は表３の通りとなっている。表３から明らかであるように、BK の全体計画における「DOW」の学習に関しては、厳密に『カリキュラム・フレームワーク』に示されている３つの学習目標及び、それぞれの学習目標に対応する知識・スキル・気質の習得に沿って作成されているのである。

表３．全体計画に示されている「DOW」の教育活動内容

学習目標	N1	N2	K1	K2
①住んでいる世界に関心を示す	1.1　五感を使って素材や周囲のものを観察し、探索する。 ・出会った素材を見たり、触ったり、持ち上げたりするなど探索する。 ・観察したことを言葉にしようとする。 ・質問をしようとし、教師の助けを借りて発見する。 ・道具を使って物を調査し、観察したものの特徴を説明しようとする。（例：虫眼鏡を通して物を観察する）	1.2 周囲の生物や無生物を観察し、質問する。	1.3 観察や発見を比較し、それについて話す。 1.4 観察を絵や文字で簡単に記録する。	1.5　さまざまなソースから情報を収集し、物事がなぜ起こるのか、物事がどのように機能するのかを調べる。 1.6 絵を描いたり、3 次元モデルを作成したり、文章を書いたりすることで、観察や発見を簡単に記録する。
②簡単な調査を通じて、物事がなぜ起こるのか、どのように機能するのかを見つける	2.1　家庭での科学活動を通じて調べる。 ・食べ物の質感、色、味の変化を観察し、その変化に対する予測をする。 ・何が起こったのかを話そうとし、観察したことを言語化する。	2.2 簡単な道具や機器を使って、物事がなぜ起こるのか、どのように機能するのかを調べる。 2.3　生物と無生物、場所と出来事の類似点と相違点を知る。	2.4 環境で発生する変化とパターンに注意する。 2.5　さまざまな情報源から情報を収集し、質問して答えを求める。 2.6 絵を描いたり文章を書いたりして、発見したことを簡単に記録する。	2.7 簡単な調査を行い、なぜ物事が起こったのか、なぜ物事が機能するのかを明らかにする。 2.8　描画または書き込みを通じて時間の経過に伴う変化を記録する。 2.9 単純な推論で結果を予測する。 2.10　簡単な調査の結果をさまざまな方法で説明し、提示する。

③周りの世界に対して前向きな態度を育む	3.1 好奇心を持ち、環境を清潔に保つための役割について意識する。 3.2 生き物に対する配慮と敬意を示す。	3.3 環境を清潔で緑に保つ上での役割と責任を認識する。 3.4 生き物に対する配慮と敬意を示す。	3.5 日常生活において、消費量の削減、再利用、リサイクルによって天然資源を保護する必要性を認識する。	3.6 人間の行動が環境に与える影響を認識する。

筆者整理

それでは各学年において、「DOW」の学習活動は一年間にわたってどう展開されていくか、その方向性を示す年間指導計画を表４に示しながら、検討していく。

表４．年間指導計画における「DOW」の学習活動に対する構想

	N1	N2	K1	K2
第１学期	・感覚遊びを利用して、見る、聞く、触る、感じる、味わうなどのスキルの発達を促す。 ・観察・比較を通して「家族」という概念を理解する。 ・さまざまな感情に結びつく表現を発見する。 ・子どもたちは周りの世界に興味を示すようになる。	・「自分は特別だ」と自己肯定感を持つ。 ・自分の特性や強みを自覚する。 ・五感に対応する体の部位をわかる。 ・身の回りのケアと衛生管理の重要性を知る。	・五感の働きを味わい理解する。 ・五感と感覚器官の違いを理解する。 ・私たちの感覚が生活の中でどのように役立つかを探る。 ・「家族」の特徴や「家族」の種類を観察・比較する。	・臓器に関係する一般的な慢性疾患についての知識を知る。 ・観察して調べる～豚の心臓～ ・歯科医師による歯科ヘルスケアトークを行う。 ・歯科検診を体験する。
第２学期	・感覚遊びを利用して、見る、聞く、触る、味わうなどのスキルを身につける（ウーブレック、水遊び中のウォータービーズ、グープなど）。 ・子どもたちは周りの世界に興味を示すようになる。	・衣服や食べ物はどこから来るのか考える。 ・天候に応じた服装について知る。 ・パンケーキを焼く・揚げる前後の変化を知る。 ・場所を知る。－ スーパーマーケット、ホーカーセンター、ファーストフード、コーヒーショップ等	・さまざまなタイプの住宅の類似点・相違点・パターンを知る。 ・比較する・語る・世界のユニークな家を知る。 –家の一部とその目的 –家の建設に使用される材料の種類 ・小グループでのディスカッションで質問し、住宅の種類について調べた結果を記録する。・いろんな場所を探索し、近隣の人々を特定する。・簡単な地図を読む。	・学校生活をサポートする職員の役割を知る。 ・地域で役立つ人の職業を知る。 ・ソーシャルワーカーに対するインタビューを行う。
第３学期	・子どもたちは身の回りの世界に興味を示すようになる。 － 絶滅危惧種の動物	・動物のライフサイクルについて学ぶ。 ・動物の鳴き声。 ・絶滅の危機に瀕した動物。	・海洋動物やその他の生き物を識別する。 ・食物連鎖のパターンを認識する。 ・海棲哺乳類と魚類を比較する。 ・社会的責任 –絶滅危惧種の動物を保護する。 - 海洋汚染	・熱帯雨林で見つけた動物の足跡を探る。 ・子どもたちの自然環境への関心を高める。 ・熱帯雨林の生態系について学ぶ。 ・アマゾン：世界の肺
第４学期	・子どもたちは周りの世界に興味を示すようになる。	・フロート/シンク ・道路標識を守る。 ・環境関連：公害について	・変化やパターンについて比較したり話したりする。 –前後の時間、ルーティン/イベントのシーケンス –食事の種類、昼と夜のアクティビティ ・曜日、月・観察・記録 – 天気予報・予測 –(温度)加熱/冷却・観察・予測 - 影と光の実験・雨、虹、水の循環・天気は私たちにどのような影響を与えるか知る・異常気象	・小学校１年生になるための準備をする。 ・観察 ・記録 ・批判的思考 ・推理

筆者整理（表中下線は筆者）

表４に示されているように、「DOW」の学習において各学年の一年間にわたって展開されていく主な内容を整理してみると、N1 の場合：「感覚遊び」→「家族」→「感情表現」→「絶滅危惧種の動物」となっている。学習の範囲は子ども自身に焦点を当てることから子どもを取り巻く周囲の世界に対する認識を養うことへと広がっており、「DOW」の学習目標①「住んでいる世界に関心を示すこと」が意識されていることがわかる。N2 の場合：「自分」→「五感」→「身の回りのケアと衛生管理」→「衣服や食べ物」→「場所」→「動物のライフスタイル」→「道路標識」・「公害」となっている。こちらも学習内容は子ども自身についての認識から子どもを取り巻く周囲の世界への拡張が明らかであり、「DOW」の学習目標①「住んでいる世界に関心を示すこと」が意識されていることがわかる。続けて K1 の場合：「五感」→「家族」→「住宅」→「海洋動物」→「食物連鎖」→「社会的責任」→「海洋汚染」→「時

間・ルーティン・天気」となっており、学習活動においては「観察」・「比較」・「調べる」・「探索」・「話す」などのスキルの育成が求められている。これらのことから、K1 の学習内容は子ども自身についての認識から子どもを取り巻く周囲の世界への拡張が明らかであり、「DOW」の学習目標①「住んでいる世界に関心を示すこと」と②「簡単な調査を通じて、物事がなぜ起こるのか、どのように機能するのかを見つける」が意識されていることがわかる。最後に K2 の場合、学習内容は「臓器と健康」→「職業」→「自然環境」・「生態系」など、子どもが自身についての認識から子どもを取り巻く周囲の世界へ拡張していることは前の三つの学年と同じ傾向が確認できる。また、K2 の学習活動を通じて、子どもに「観察」・「体験」・「調査」・「探検」・「記録」・「批判的思考」・「推理」などのスキルの育成が目指され、「DOW」の学習目標①「住んでいる世界に関心を示すこと」と②「簡単な調査を通じて、物事がなぜ起こるのか、どのように機能するのかを見つける」のほか、③「周りの世界に対して前向きな態度を育む」ことも意識されていることがわかる。

以上の内容から次の特徴が見えてくる。すなわち、①どの学年においても一年間の学習のスタート（第１学期）に子ども自身に関するトピックを取り上げており、その後の学習（第２学期、第３学期、第４学期）内容は子どもを取り巻く身近な世界へと広がっていく傾向が確認できる。②内容は似ていても、学年が上がるごとに、取り上げている内容の広がりや、深みが増していくことが見て取れる。③年齢の低い N1 や N2 クラスの子どもたちには、「DOW」の学習目標①「住んでいる世界に関心を示す」ことに焦点を当てているのに対して、K1、K2 クラスの子どもたちには、「DOW」の学習目標②や学習目標③にも焦点が当たるようになっている。そして、④「DOW」の学習活動を通じて身につけるべき知識・スキル・６つの気質に対する配慮からも『カリキュラム・フレームワーク』の方針が意識されている。

以上の BK の全体計画や年間指導計画に対する分析から、BK のカリキュラム編成における「社会」という概念に対する捉え方とは、子ども自身の身体や感情、周囲のもの、素材をはじめ、生き物・無生物、場所と出来事・イベント、時間・天気、家族や近隣の人々、衣服や食物、自然環境や資源、発明とテクノロジー（K2 の「臓器と健康」の学習活動において取り扱う観察活動に含まれている[17]）などが含まれていることは明らかである。また、こうした「社会」とつながるために必要とされている子どもの資質・能力とは、観察・探索・道具を使って調べること、比較すること、情報収集・記録する力、批判的思考・推理能力、対話と発信する力、さらに、環境や生き物、出来事など周囲の生活世界に対する責任・配慮と敬意となっている。「DOW」の学習内容から、「社会」という概念に関する考え方、及び「社会」とつながるために必要とされている子どもの資質･能力に対する考え方は､『カリキュラム･フレームワーク』に示されている考えと一致していると言えよう。

４．BK における「DOW」の学習活動の実態

表３の BK の全体計画及び表４の年間指導計画における「DOW」に対する構想を見てから、本節では当園での「DOW」の学習において、実際にどのような活動が展開されているか、どのような工夫がされているのかを探っていく。なお、表５は、2022 年度に実際に展開された「DOW」の学習活動のトピックを示すものであるため、新年度がスタートする前に作成された計画である表４の内容と違いが存在していることはご理解いただきたい。

表５．2022 年度 BK における「DOW」の年間学習トピック

	N1	N２	K1	K2
第１学期	**Myself& Feelings** gender/head/handslegs /hygiene/happy/sad/an gry/ tired	**More about myself** Eyes/ mouth/nose/ Ears/hands& ingers/ legs & toes/ body/care for my body	**My Family & 5 Senses** Assessments/ family tree/ my parents/ my siblings/ sight/ hearing/ smell/ taste/ touch	**Human Body** Digestive :mouth & esophagus/Stomach/ intestines/skeletal:bone/ irculatory:heart/ circulatory: blood/ brain/ skins/ care for your body
第２学期	**Animals (wild/farm)** Habitat/land animal/farm animal/wild animal	**Food and Clothes** types of Food/Meat/ vegetable/poultry/fungi/ healthy eating/ shirt/blouse/pants/shorts/ski rt/jacket/shoe/ head wear	**Home & Neighbourhood** is a house a home/kitchen/ living room/bedroom/toilet/ design my home/homeless/ what form a community/ school/market vs supermarket/ hawker centre vs food court/ clinic vs hospital/	**Occupation** teacher/doctor/nurse/food seller/ cleaner/cook/chef/police/fire fighter/ construction worker or baker
第３学期	**Fruit &Vegetables** fruit/vegetable	**Pets** what are pets?/ Cat/ dog/rabbit/ hamster/ bird/fish/terrapin/ protect yourself from pets/responsibilities	**Sea Creatures** starfish/crab/octopus/shark/ fish/jellyfish/sea pollution/ coral reef/safety in the Sea	**Rainforest** why rainforest is important/intro on layers: forest floor, understory, canopy & emergent/forest floor/ understory/canopy /emergent/animals in the forest/dangers in the forest/protect our rainforest/ food chains
第４学期	**Transportation** car/bus/ MRT/ train/bicycle/road signs/road safety/ plane/chopper/hot air balloon/boat	**Insect** Characteristics/Butterfly/gr asshopper/ant/bee/cockroac hes/mosquito/housefly/lady bug	**Water** water everywhere/absorption/ states of water/who needs water/ water cycle/ water safety/ national taps/ sink and float/ water games	**Going to Primary School** growing taller yet still shorter/small Kindy big Primary/tooth fairy/more teachers many friends/safety in a big school/listen to our seniors/ to buy or not to buy/my thinking, teacher's expectation/bully/share your feelings

筆者整理

表５に示されているように、一年間にわたって取り組む「DOW」の学習トピックについて、N1 の場合は「Myself& Feelings」、「Animals」、「Fruit and Vegetables」、「Transportation」であり、N2 の場合は、「More about myself」、「Food and Clothes」、「Pets」、「Insect」である。また、K1 は「My Family & 5 Senses」、「Home & Neighbourhood」、「Sea Creatures」、「Water」となっており、K2 は「Human Body」、「Occupation」、「Rainforest」、「Going to Primary School」となっている。これらのトピックから、どの学年においても一年間の学習のスタートに子ども自身に関するトピックが取り上げられており、その後の学習トピックは子どもを取り巻く身近な世界へと広がっていく傾向が確認できる。また、子どもが周囲の世界を知る、探検するために設けられたトピックは、学年が上がるごとに、取り上げられている内容の広がりとともに深みも増していくことは BK の年間指導計画と方向性の一致がうかがえる。

「DOW」の学習活動は実際ではどのように展開されているのかを探るために、K2 の第２学期で取り組まれた「Occupation」というトピックの学習の一環を示す学習指導案を表６のように示しておく。

「Occupation」というトピックの学習は子どもに、自らの生活している世界にどのような職業があるかを気づかせ、自らの成長と学習に協力してくれた人々に感謝を示し、進んで家事を分担することで家族を手伝う態度の育成が目指されている。表６に示されている指導案の「The Work People Do」は「Occupation」というトピックの学習のための最初の授業に位置付けられている。指導案の内容から、次の事実が確認できる。すなわち、①幼児教育において育成しようとする６つの気質を一つのトピックの学習において総合的に育もうとしている。このことは、「Disposition」の欄に示されている６つの気質、及び「Lesson Development」に書かれている内容から読み取れる。②授業の到達目標、及び習得すべき知識・スキルの設定は『カリキュラム・フレームワーク』に準拠している。これについては、「Learning Goal (s)」「Objective(s)/ Learning Outcome(s)」から確認できる。③子どもたちの学習を促すために、教師が様々なリソースを用意している。これについては、「Resources/ Materials」及び「Tuning-in」から確認できる。

表６：学習指導案「The Work People Do」

Disposition	Perseverance： Children will keep working at a task to complete it.
	◎Reflectiveness： Children will think about what they have done, seen, heard or felt.
	◎Appreciation： Children will listen to view of others and show respect.
	Inventiveness： Children will explore various ideas and possibilities.
	Sense of Wonder and Curiosity： Children will show interest in the world around them.
	◎Engagement： Children will be immersed in learning and enjoy what they do.
Topic	DOW
Learning Goal (s)	DOW - Develop a positive attitude towards the world around them.
Objective(s)/ Learning Outcome(s)	1. Learn about specific jobs and occupations in the home and community. 2. Appreciate the people in the child's life that work to help them grow and learn. 3. Learn to do specific age-appropriate chores to help their family.
Resources/ Materials	Laptop, info book, picture charts
Tuning-in	Watch Video, Busy People(Richard Scarry) https://www.youtube.com/watch?v=dfZRAZA8-yU
Lesson Development	**1.** Chn to name jobs that they recall from video. **R** 2. Remind them that not all people who work are paid(for example Mommies and Daddies who do housework,volunteers at local charities and churches,etc.) **A** 3. Introduce the term,"occupations".Chn to name their parentes'.**R** 4. Ask them which jods seem the most fun and the fun.**R.A.I** 5. Talk about the education required to perform the different jobs(college,military training, Vocational school,high school,etc.)**E,A** 6. Talk about how all work can be rewarding if it is done with a good attitude.(Colossians 3:23-24:"whatever you do,do it from the heart for the lord and not for people.You know that you will receive an inheritance as a reward.You serve the lord Christ."**A**
Closure	Teach Song-Busy People
Evaluation	Objective(s) met－(　　)yes　(　　)no

筆者整理。この授業において特に養いたい気質については◎をつけている。

2022 年度に BK で実施された「DOW」の学習活動の実態をさらに把握するために、当園の元園長に対するインタビューも実施した。インタビューで判明したことを以下に示す。

BK における「DOW」の教育活動は主に①「各民族の相互理解を促す」もの（「DOW」の学習対象の「人々と文化」・「時間と出来事」に対応する）、②「幼稚園の外にはどんな場所があるか」を探検するもの（「DOW」の学習対象の「場と空間」・「自然・建築環境」に対応する）、及び③「職業」に関するもの（「DOW」の学習対象の「人々と文化」に対応する）、の三つを中心に展開されている（教育活動②と③において、取り扱う内容によって「発明とテクノロジー」にも対応している）。

まず、①「各民族の相互理解を促す」ものとして、シンガポール政府に定められている祝日である「種族和解の日（シンガポールの各民族の相互理解を促し、和平を保つために設けられた祝日）」をはじめ、華人系住民の旧正月や、インド系住民の Vesei Festival、マレー系住民のイード・アル・フィトルなど、各民族の最大の祝日に合わせて、幼稚園でお互いの文化、伝統、習慣等に対する理解を図るための活動が展開されている。例えば、「種族和解の日」に、各民族の子どもたちが、それぞれの民族衣装を着て登園し、それぞれの民族の歌や踊り、遊びを披露する。また、旧正月や Vesei Festival、イード・アル・フィトルの日に、華人系、インド系、マレー系の保護者に来てもらい、それぞれの民族の伝統的な食事を園で調理し、子どもたちに試食させる活動が展開されている。

次に、子どもたちが身近な生活世界に関心を示すことを目指して K1 及び K2 の子どもを主な対象として実施される②「幼稚園の外にはどんな場所があるか」を探検するものがある。例えば、第２学期の K1 の「Home & Neighborhood」というトピックの学習活動において、４回に渡って子どもたちを園の外

へ連れて行っている。１回目は、幼稚園の周りに何があるかを大まかに探すもの、２回目は、Hawker center とフードコートの違いを探るもの、３回目はマーケット（バザー）とスーパーの違いを見つけるもの、４回目はクリニックと病院の違いを見つけるもの、である。４回目の活動が終わった後、医師に来園してもらい、子どもたちにどんな時に病院で受診し、どんな時にクリニックで受診すべきかについて話をする時間も作っている。子どもたちの興味関心を喚起し、より一層周りの世界に注目することを目指して「DOW」の学習活動のほかに、すべての学年に対して学期ごとに１回の園外活動を実施するようカリキュラムが編成されている。園外活動は学習トピックに合わせて、子どもたちを海遊館、植物園、動物園など公的な施設へ連れて行くことが多く、子どもたちの視覚や嗅覚、触覚の発達を促すものが中心となっている。これまで、「コミュニティ散歩」「学びの旅」「音楽会」「スポーツ競技」「特別ゲスト」などのトピックのもとで活動が実施されてきた。ただ、本来、学期ごとに１回実施する予定となっているこの園外活動はここ数年計画通りに実施できておらず、第２学期には運動会、第３学期には卒園発表会の練習があるため、実質的には第１学期と第４学期しか実施できなかったうえ、室内運動場に行くことが多いということが実情である。

そして、③「職業」に関するものとして、教師・医者・パイロット・消防士・警察官など子どもたちにもよく知られている職業について子どもたちに調べさせたり、発表させたりするものがある。なお、K1 で経験した「DOW」の学習活動を踏まえて、K2 の「職業」に関する学習で取り上げる具体的な職業を決めていくことになっている。また、「職業」に関する学習においては、身近な資源を最大限に利用することを原則としており、子どもたちに園の教師たちに対するインタビューをさせることが多い。インタビューの内容については、子どもたちに自主的に準備してもらい、本番前に１時間を設け、子どもたちの準備した内容に対する担任教員の指導及びインタビューのリハーサルを行う。なお、子どもたちが３人一組で活動に取り組んでもらい、一人は質問担当、一人は記録担当、もう一人は写真撮影担当となっている。園の教師のほかに、子どもの保護者に来園してもらい、自身の職業について子どもたちに紹介したり、子どもたちにインタビューさせたりしている[18]。

以上は BK で実際に展開された「DOW」の学習活動の実態である。この実態から、当園の教育実践は全体計画・年間指導計画同様に、『カリキュラム・フレームワーク』に沿っていることが明らかである。つまり、BK の教育実践において、「社会」とは、子どもが自身についての認識から子どもを取り巻く周囲の世界へと拡張していく概念と捉えられており、その中身は子ども自身の身体や感情、周囲のものや素材、家族や近くにいる様々な職業に従事している人々、動物や昆虫、食べ物や衣服、生き物・無生物、交通手段や近くにある場所、自然資源・環境・出来事・イベント・天気・時間・変化とパターン・発明やテクノロジーなどが含まれていることが明らかとなった。なお、こうした「社会」とつながるために必要とされている子どもの資質・能力とは、観察・探索・道具を使って調べること、比較すること、情報収集・記録する力、批判的思考・推理能力、対話と発信する力、さらに、環境や生き物、出来事など周囲の生活世界に対する責任・配慮と敬意となっている。

「社会」とつながる資質・能力の育成のために、BK の教育活動において、子どもたちに６つの気質を総合的に育成することが重視されている。子どもたちには周囲の人々や異なる文化と触れ合わせ、自然および建築環境やさまざまな場所と空間に足を運んでもらい、調べる活動に従事させ、時間と出来事に

関する経験をさせることに力を入れている。とりわけ、当園の取り組みの中でみられるように、①各民族の子どもたちがお互いの文化、伝統や習慣に対する理解を深めるための活動が充実していること、②幼稚園の活動に子どもたちの保護者の協力を大いに求めていること、③「職業」の学習活動に見られるように子どもたちの主体的な取り組みを重視していること、が当園ならではの工夫といえよう。しかし一方で、当園では園外活動の展開が年間計画で予定されている回数の半分に留まっており、行き先もやや単調である傾向が見られ、子どもたちは興味・関心を持って周囲の世界にアプローチするという学習目標の達成に支障をきたしうる点が課題となっている。

BK はキリスト教系の幼稚園とはいえ、その教育活動は厳密に『カリキュラム・フレームワーク』に沿って展開されている。また、本論文で取り上げている BK の全体計画や年間指導計画、さらに学習指導案からも BK における「DOW」の学習活動の実態に宗教の影響はうかがえなかった。したがって、BK における教育実践がシンガポールの一般的な幼児教育の実践を代表しうるものと考えられる。

５．まとめと展望

本論文は、グローバル化に対応するために「社会に開かれた教育課程」の実現を求めている日本の幼児教育に示唆を与えることを目指して、先進的な取り組みが進められてきたシンガポールに焦点を当て分析を行った。当国の幼児教育課程政策につづき、現地の幼稚園における取り組みを取り上げ分析した結果を以下のようにまとめておく。

まず、シンガポールの幼児教育課程政策及び教育現場において「社会」とは、単に日本の幼児教育に意識されている子どもたちの自宅、家族、園、近所など身近な人的・物的・空間的な環境や自然資源を意味するものだけではなく、子どもが自身についての認識から子どもを取り巻く周囲の世界へと拡張していく概念と理解されている。その中身は、子ども自身の身体や感情、周囲のものや素材、家族や近くにいる様々な職業に従事している人々、動物や昆虫、食べ物や衣服、生き物・無生物、交通手段や近くにある場所、自然資源・環境・出来事・イベント・天気・時間・変化とパターン・発明やテクノロジーなどが含まれている。つまり、「社会」とは、子どもたちが生活している広い現実世界であり、国際社会そのものと捉えられていることがわかる。また、「社会」とつながるために必要とされている子どもの資質・能力は、社会に対する興味・関心に加え、五感や簡単な道具を使って身近な世界に対する探検を行う意欲態度、情報を収集・記録し、調べた結果を表現する力、対話や発信する力、さらに、生き物や環境、出来事など周囲の生活世界に対する責任、配慮、敬意となっている。

「社会」とつながるために必要とされる子どもの資質・能力の育成において、BK はとりわけ各民族の子どもたちがお互いの文化、伝統や習慣に対する理解を深めるための活動を重視していること、幼稚園の活動に子どもの保護者の協力を大いに求めていること、及び子どもたちの主体性を重んじているといった工夫がされている。一方で、実際の学習活動において、子どもたちの周囲の世界に対する興味関心を喚起するための園外活動の展開が充分にできておらず、子どもたちと周囲の「社会」とのつながりの実現に関する懸念材料となっている。

「社会に開かれた教育課程」の実現が重視されていながら、「社会」という概念に対する定義が不明瞭なままに留まっている日本の幼児教育には、シンガポールの幼児教育における「社会」という概念に対

する捉え方、及び「社会」とつながるために必要とされる子どもの資質・能力に対する認識はともかくとして、BK の教育実践に見られる工夫と課題は、「社会」とつながるために必要とされる子どもの資質・能力の育成をますます重視していく日本幼児教育に示唆を与えうるであろう。

本研究は JSPS 学術振興会科学研究費補助金（課題番号 18k13078）の助成を受けたものの一部である。

参考文献・註

[1] 吉冨芳正「『社会に開かれた教育課程』の意義と条件」http://shop.gyosei.jp/library/archives/cat01/0000001188 アクセス：2023/09/20。
文部科学省「社会に開かれた教育課程（これからの教育課程の理念）」http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/09/30/1421692_4.pdf アクセス:2020/10/18。文部科学省「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/09/30/1421692_1.pdf アクセス:2020/10/18

[2] 文部科学省『幼稚園教育要領』前文、平成 29 年 3 月告示。https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h29k/index.htm アクセス：2023/09/20。文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成 30 年 2 月 https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf アクセス：2023/09/20。

[3] 同上

[4] 同上

[5] 池田充裕「シンガポールにおける幼児教育・保育の成立過程とその現状：早期二言語教育の歴史と実践に着目して（記念講演）」『幼児教育史研究』第 4 巻、47-60 頁、2009 年。池田充裕「シンガポールーグローバリゼーション対応の幼児教育ー」、池田充裕・山田千田明編著『アジアの幼児教育:幼児教育の制度・カリキュラム・実践』160-181 頁、2006 年。

[6] 埋橋玲子「シンガポールの幼児教育・保育(1)概況と背景」『同志社女子大学学術研究年報』（67）、 57-67 頁、 2016 年。埋橋玲子「シンガポールの幼児教育・保育(2)質の認証システム SPARK に注目して」（研究ノート）『同志社女子大学現代社会学会現代社会フォーラム』（13）、 28-38 頁、 2017 年。埋橋玲子「シンガポールの幼児教育・保育(3)カリキュラムの枠組みに注目して」『同志社女子大学学術研究年報』(68)、 47-58 頁、 2017 年。

[7] 坂井武司、赤井秀行「幼児教育における日本とシンガポールのカリキュラム比較に関する研究」『京都女子大学発達教育学部紀要』第 16 号、21-30 頁、2020 年。坂井武司、赤井秀行「算数の基礎を育む保育と評価に関する研究ーシンガポールの幼児教育をもとに - 」『京都女子大学発達教育学部紀要』第 18 号、21-32 頁、2022 年。

[8] 李霞「シンガポールの幼児教育課程編成における『地域資源利用』の構想と実際」『地域連携教育研究』第 7 号、京都大学学際融合教育研究推進センター、37-48 頁、2022 年。李霞「シンガポールにおける就学前教育改革の動向及び課題―教育政策の変遷に焦点を当ててー」『滋賀短期大学研究紀要』第 44 号、85-102 頁、2017 年。李霞「シンガポール就学前教育改革の現状と課題についての考察 ―教育課程政策の理想と幼稚園でのカリキュラム編成の実際に注目してー」『滋賀短期大学研究紀要』第 47 号、57-70 頁、2021 年。

[9] MOE、Singapore『Nurturing Early Learnerー A Curriculum Framework For Kindergartens in Singapore』2012 年、6 頁。

[10] 同上、11 頁。

[11] 同上、16 頁。

[12] 前掲書、MOE、Singapore，72-77 頁。

[13] 同上、74 頁。

[14] 同上、74-77 頁。

[15] 同上、72 頁。

[16] BK 元園長へのインタビュー、2023 年 10 月 1 日。

[17] BK 元園長へのオンラインインタビュー、2023 年 10 月 15 日。

[18] BK 元園長へのオンラインインタビュー、2023 年 10 月 22 日。

The Actual Situation of Connections with “Society” in Singapore's Preschool Education: Focusing on the Learning Area of “Discovery of the World”

Xia　LI

This study addresses the dearth of prior research concerning the connections with "society" within early childhood education in Singapore, and aims to offer meaningful suggestions for Japan, which strives to clarify the idea of "Curriculum Open to Society."

The paper delves into three primary aspects. ①What is the specific concept of "society" considered in early childhood education in Singapore? ②What are the qualities and abilities of children required to connect with "society"? ③What kind of activities and ideas are used in Singapore to foster these qualities and abilities?

To achieve these research objectives, this paper analyzed Singapore's early childhood education curriculum policy and conducted an empirical study through field observations at local kindergartens.